

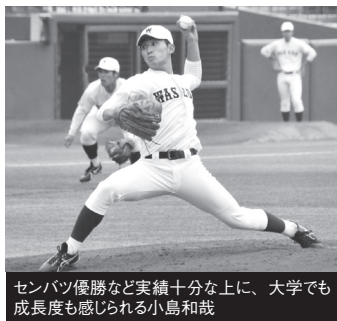


千葉ロッテマリーンズ

3球団競合から補強ポイント合致の藤原を獲得！
左腕不足を解消できるか？ 大卒投手2枚に期待

プラスポイント

中心となる外野手がどうしても必要だったチーム事情において、3球団競合の末、藤原恭大（大阪桐蔭高）の交渉権を獲得できたことは大きなプラスだ。昨年のドラフト1位、安田尚憲とともにチームの未来図が描きやすくなった。



センバツ優勝など実績十分な上に、大学でも成長度も感じられる小島和哉

2位以下では即戦力を中心に投手を多く指名した。手薄なリリーフや左腕と補強ポイントにも合っている。

カテゴリー別に見ても高校生4人、大学生3人、社会人1人とバランスがとれている。ほぼ構想通りに指名ができたはずだ。

マイナスポイント

大きなマイナスはない。だが、改めてチーム構成を見ると右打ちの若手野手がほとんどいない状態だ。7位で松田進（Honda）を指名したが、まだ足りない。

リリーフや左腕の補強を優先したのだろうが、チーム構成の点ではマイナスだ。

即戦力の期待がかかる投手も、プロでハマれば」というタイプで

補強ポイントおさらい

- ① チームを担う高卒外野手
- ② 左腕投手
- ③ 即戦力外野手
- ④ 将来のショート
- ⑤ 即戦カリーフ左腕

ドラフト採点

75点

1 藤原恭大 (外野手・大阪桐蔭高)

▶補強ポイント真ん中の選手を引き当てた!

2 東妻勇輔 (投手・日本体育大)

▶軸になりそうなリリーフ候補はほしかった

3 小島和哉 (投手・早稲田大)

▶5位中村と完成度高い左腕獲得は大きな成果

4 山口航輝 (外野手・明桜高)

5 中村稔弥 (投手・垂穂亜大)

6 古谷拓郎 (投手・習志野高)

7 松田進 (内野手・Honda)

8 土居豪人 (投手・松山聖陵高)

どこまで結果を残せるかといった不安が残る。

即戦力

2位の東妻勇輔（日本体育大）は、小柄な体を目一杯使い、力強いストレートと鋭いスライダーを投げる右腕。リリーフとして即戦力の期待がかかる。

ピッチング能力に関しては問題ないが、力投派だけにリリーフで1年間持つかが心配だ。適度な休息を挟みながら、起用したい。

ドラフト直前、秋のシーズンに

なつてから評価が急上昇した左腕が3位の小島和哉（早稲田大）。以前より球威の増したストレートがプロでも通用すれば、先発ローテーションの一角として計算できる。

同じく左腕の5位・中村稔弥（垂穂亜大）は、インスタテップから繰り出す左打者への内角球とツーシームでゴロの山を築くのが持ち味。ブルペンではあまり見栄えがしないため、キャンプでの評価は低いかもしれないが試合で力を発揮するタイプだ。

また、育成ドラフトでの指名だ